

教育委員会会議録要旨 (令和4年第20回)

定例会	日 時	令和4年10月26日(水) 午後1時30分
	場 所	明石市役所分庁舎4階教育委員会室
出席者	委 員	北 條 英 幸 教 育 長 橋 幸 男 委 員 柏 木 輝 恵 委 員 橋 本 彰 則 委 員 川 本 まり子 委 員
	事 務 局	村田局長 田辺室長 桑原次長(指導担当) 新田次長(給食担当) 西山総務担当課長 小島学校教育課長

次 第

○報告事項

1. 令和4年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業について
2. 「トライやる・ウィーク」推進事業の教育委員会定例会での受け入れについて
3. 「令和4年度全国学力・学習状況調査分析資料」について

開催

(北條教育長)

それでは、ただいまから、令和4年第20回定例会を開会します。

本日の署名委員は、川本委員をお願いします。

まず、本日の議事についてですが、報告事項3「「令和4年度全国学力・学習状況調査分析資料」について」は、「その他傍聴を認めることにより、教育行政の公正若しくは円滑な運営に著しい支障を生ずるおそれがある事項」として、教育委員会会議規則第13条第4号により非公開として、最後に審議してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(北條教育長)

報告事項3を非公開といたします。

それでは、本日の審議を始めます。

報告事項1「令和4年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業について」、説明をお願いします。

(小島課長)

報告事項1「令和4年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業について」、ご報告いたします。

平成10年度からスタートいたしました「トライやる・ウィーク」は、本年度で25年目になります。

本年度は、11月7日(月)から11月11日(金)までの5日間、市内13中学校と明石養護学校中学部の生徒2,491名が体験活動を行う予定です。

昨年度はコロナ禍での活動ということで、事業所で職場体験活動を

する学校（6校）と事業所には行かず学校独自の体験活動をする学校（8校）に分かれておりましたが、本年度は、県教育委員会の通知により、県下全校が「事業所等の受け入れ先による1週間の社会体験活動をする」ことになっております。

本年度の職場体験活動の事業所は、延べ897事業所になります。

事業所での活動分野の内訳ですが、販売、製造、飲食、理美容のサービス・接客業、また保育所、幼稚園、学校、図書館などの教育施設から、市役所・消防署・警察署などの官公庁、福祉機関、個人商店、新聞社・ケーブルなどのマスメディアなどです。活動分野の割合は、職場体験が91.6%と大多数を占めている状況です。

また、県・市等関連施設の受け入れ先については、本年度は、コロナ、海づくり大会のため受け入れが出来ない事業所が3か所ございます。

新規の受け入れ先として、子育て支援センターにしあかし、子育て支援センターうおずみ、就労継続支援B型「時のわらし」、明石市教育委員会教育企画室・学校教育課・あかし教育研修センター・東部学校給食センターの6か所を含め、合計42事業所となりました。人数としましては、合計26人プラスとなっております。

次に、本事業の趣旨につきましては、学校を離れ生徒たちに時間的、空間的なゆとりを確保し、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性などを「心の教育」を実践すること、また多様な社会体験活動を通じ、生徒のキャリア発達を支援し、地域に学び、共に生きる心や感謝の心を育み、自律性を高めるなど、「生きる力」の育成を図っていくことです。

その他につきましては、昨年度は11月8日から12日、事業所での

職場体験活動をする学校（6校）と事業所以外での体験活動をする学校（8校）に分かれて5日間実施し、各校で工夫した社会体験活動を行いました。資料の写真は、高丘中学校のフィールドワークで、「魚の棚」を取材している様子になります。

また、本年度の「トライやる・ウィーク展」につきましては、昨年度と同様、時間的に実施が難しいため中止としております。

最後に、本事業におきましては、ここ3年はコロナ禍のため11月実施となっておりますが、来年度（令和5年度）につきましては、学校行事等の関係、また、生徒の発達段階を考慮しまして、コロナ前の6月実施に戻すことが決まっております。実施期間は6月5日から9日の5日間の予定でございます。

以上、報告を終わります。

（北條教育長）

報告内容に関連しまして、橋本委員より県の「トライやる・ウィーク」推進協議会に係る資料の提供がありましたのでご説明をお願いします。

（橋本委員）

昨年度の実績、経験を踏まえまして、3月9日に推進協議会が開催されております。

昨年度、同じ内容を明石でも経験しているわけですが、どのような意見が出たのかといったことを確認いただければと思います。

総論的なことは置いておいて、各論では意見交換の場でできたことについて、やはり地域や社会との関わりという点が重要ではないかということが、それぞれの団体から出ております。

教育関係のほうからは、市町の推進協議会と学校、事業の趣旨を理解させるといったことなど、推進協議会の重要性ということも意見として出ております。

あと、製造現場等リモート勤務がなじまない職場があり、今、この世の中ではリモートが中心になりつつあり、学校でもそうですが、そのリモートが必ずしも全てで対応できるものではないということも理解していただきたいということが一部で出ております。

そういったことも含めまして、全県でそれぞれの団体からの意見があったということ踏まえまして、明石の中でも充実させていただければよいと思い、資料提供させていただきました。

(北條教育長)

何かご意見やご質問などはありませんか。

報告事項2につきましても若干関連がございますので、次にいきたいと思います。

報告事項2「「トライやる・ウィーク」推進事業の教育委員会定例会での受け入れについて」、説明をお願いします。

(西山課長)

報告事項2「令和4年度 地域に学ぶトライやる・ウィーク推進事業における教育委員会定例会での受け入れ」について、ご説明いたします。

先ほど、学校教育課長から説明がありましたように、「トライやる・ウィーク推進事業」の一環としまして、市教育委員会事務局でも5名の生徒を受け入れる予定で考えております。

そのなかで、11月8日に定例教育委員会がありますので、その運営を手伝っていただくとともに、定例会終了後に生徒が参加して教育委員に提案を行う模擬定例会を開催したいと考えております。

「11月8日の流れ」ですが、定例教育委員会が終了する14:00頃から30分程度を想定しております。

別紙「教育委員懇談会の流れについて」をご覧ください。

「自己紹介」で、最初に生徒及び教育委員に簡単に自己紹介いただ

きます。

「模擬教育委員会」として、生徒に「明石の教育をより良くするため、提言したいこと」というテーマで発表を考えております。教育委員の皆様には、提言を受けて自由に質問や感想をお願いできればと考えております。

最後に「総括」としまして、今回の模擬教育委員会の感想や自由質問を経て教育長に総評をいただくイメージで、30分程度を想定しております。

元の資料にお戻り願います。

「教育委員にお願いしたい事項」でございます。

定例会前に入口で生徒による受付を行いますので、お名前の確認と検温についてご協力願います。

次に、模擬定例会についてですが、提言の説明・質疑応答を経て提案の採決を考えております。ただ、提言内容につきましては、事務局がサポートしながら検討させていただきますが、内容によっては採決しないという結論もあると考えています。

次に総括での自由質問に備えまして、生徒に是非聞いてみたいことがある場合は、別紙様式に記載のうえ、11月2日水曜日までにメールで回答をお願いします。

資料一番下には、参考までに教育委員会事務局で受け入れる生徒の一週間の活動予定を記載しております。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

(北條教育長)

何かご意見やご質問などはありますか。

(橋本委員)

「一週間の活動予定」ということで、オリエンテーションから始まって、議員インタビュー、議会見学、教育委員会定例会傍聴、少年自

然の家の活動、県教委となっており、いろいろなことを体験するということですが、そもそも何を体験しにこちらに来られるのでしょうか。

(小島課長)

まず、学校で希望を募ります。内容に関しましては、その段階ではまだ詳細について提示できていなかったと思いますが、自分がそこで働きたいというよりも、教育委員会はどういうところかという思いが強いのかなと思います。

(橋本委員)

生徒たちが、教育委員会がどういったところなのかということがわかるための準備をされているということはわかります。

議員の方へのインタビュー、議会見学、少年自然の家といったあたりがどう絡んでくるのか、全体像としてのイメージが湧きづらかったので、どういう形でこちら側としてプレゼンしていくのか知りたかったのですが、どういった関係があるのでしょうか。

(西山課長)

受け入れの方向性になりますが、地方公共団体としてどういった活動をしているのかをまず知っていただくという視点で、その中で教育委員会事務局という組織が全体的にどういった活動をしているのか、自分たちの学校に関わるもの以外にも、例えば議会であるとか、そういったところにつきましては、教育委員会事務局の範疇ではないのですが、行政に来ていただく限りは、貴重な機会として体験できるものをお伝えしてあげたいという趣旨で、普段の事務局の仕事を越えたところはあるのですが、生徒が普段できない経験をさせるということで、可能なところに声を掛けさせていただいて、調整させていただきました。

(橋本委員)

そういうことであればなおさらのことになるのですが、教育委員会という組織で教育行政を携わっており、それが本庁から独立して存在していて、中だけで解決するのではなく、市民の代表である議員の方

ともやりとりをしながら、ご意見をいただいたりする場であることも含めてお話をしていただかないと、見学をして終わりということになりますので、そうではないということを説明していただきたいと思います。

また、少年自然の家に関しても、子どもの時に行った生徒もいると思いますが、それは実は、教育としていろいろな形の活用の場の一つとして使われているということを具体的にわかりやすくお示しできるようにしていただければよいと思います。

(川本委員) 時期についてですが、来年からまた6月に戻るということですが、そのあたりは、どういった理由で戻るのでしょうか。

(小島課長) 学校行事の関係がございします。

あと、何よりも、活動するのは生徒になりますので、生徒の発達段階で、やはり2年生の早い時期に活動して、残りの学年を過ごすということが今後の生徒に大きく役立つことになります。

また、学校での生活でも、前半にもってきたほうが良いということで、来年度からは例年どおりに変更させていただくことになりました。

(川本委員) 教員の多忙という問題から、この一週間をどのように多忙解消に努めているのかお伺いしたいです。

(小島課長) 先生方は、その間もちろん勤務があり、生徒たちが事業所に出ておりますので、順番に見て回っております。

ですが、基本、クラブ活動は行いませんので、クラスの活動に専念することができます。

(桑原次長) やはり何か起こったときに対応しなければいけませんので、勤務はしっかりと行う必要があると考えます。

当日の主な業務内容としては、それぞれ担当の事業所をいくつか受

け持っていますので、その担当の事業所で生徒たちがしっかり活動を行っているか確認するために事業所訪問をしております。

ただ、取り組みの大変さに比べて、当日の物理的な労力はだいぶ軽減されます。

また、お昼に飲食業で活動を行っている生徒の様子を確認しがてら、そこで食事をすることが楽しみでもあります。

(川本委員)

丁寧にしてくださっているといつも感じるのですが、何か普段の学級指導で困っている子や、不登校けれども参加しているといった生徒のほうに気持ちを持っていていただいて、地域に任せられるところは任せて、忙しい中すべての事業所を回るといったことはなくてもよいと思います。

(橘委員)

教育委員会が「トライやる・ウィーク」で各事業所などをお願いしているわけで、教育委員会としても受け入れるという姿勢は非常に大事だとは思っているのですが、25年間行っている中で、何回くらい教育委員会で受け入れを行っているのでしょうか。

(小島課長)

学校教育課では昨年度から受け入れを開始しております。

正直、事業所の確保というのは非常に難しい状況でございまして、学校も地域を回って事業所の確保に努めているのですが、なかなか今の社会情勢で難しい部分があり、確保できないといったことで、昨年度学校教育課で受け入れをしました。今年度は、他の課にもお願いをしたら、教育企画室、あかし教育研修センター等でも受け入れをしていただきました。

何よりも子ども達が活動しますので、子ども達が活動してよかったという面もあるのですが、こんな仕事もあるということを知ってほしいので、そういったことを各課で工夫して、どれだけ生徒たちに充

実した活動をしてもらえるか考えております。

(橘委員)

店や保育園等に行けば、そこで働いている方と密着して一日を過ごせるわけで、職場体験としてよく理解できると思うのですが、これだけあちこちということになれば、こういった印象を持つのかというところに疑問を感じます。

終わったあと、生徒たちの意見や担当した方々の評価といったことがあると思うのですが、これまで例えば、こういった評価や反省があったのでしょうか。

(小島課長)

他課は今年度からですので、今年度の評価を見てみなければわかりませんが、学校教育課に関しましては、担当がおりますので、基本、担当の者が生徒たちの対応をいたします。生徒も中学生ですので、こういったことが面白くなかったというような話はないのですが、今年も受け入れるということですので、悪い評価ではなかったと思います。

もちろん、学校に戻りまして、本人の振り返りでまとめを行います。

いろいろな職場がありますので、本人にとって将来就きたいと思うようなこともあれば、このような仕事は嫌だと感じる子もいるかもしれません。いろいろな取り方があると思いますが、やはり一年だけでは、はっきりとした効果はわかりませんので、今後も子ども達の意見を聞いて生かしていきたいと思います。

私たちも、子どもが好きで教師になっていきますので、子ども達がいることによってこちらにも励みになります。中学生の頑張っている姿を見ると、私たちもしんどい仕事を頑張ろうと思えますので、できる限り続けていこうと思います。

(橘委員)

職場体験の中に、「保育所、幼稚園、学校」とありますが、そのあたりの希望者や実際に派遣する人数はどのぐらいの人数になるのでしょ

うか。

(桑原次長)

私が中学校の現場にいたときの印象ですが、やはり学校、保育所、幼稚園は人気がありました。子どもに携わりたいということもありますし、自分が知っているところで活動したいということもあると思います。担当者としては、狭い世界にとどまるのではなく、できる限りいろいろな業種を経験してほしいという思いはあります。

学校園での活動の中で、園児・児童に勉強や中学校での経験を教えたり、伝えたりすることで、自尊感情が上がるといった効果もあり、すごく良い経験になっていると思います。

(橘委員)

保育所、幼稚園、学校を希望する生徒の人数的なことを教えてください。

(桑原次長)

今、資料を持ち合わせていないのではっきりした人数は把握できておりませんが、当時の経験では、かなり希望が殺到しており、第2、第3希望にまわる生徒も少なからずいました。

(柏木委員)

先生というのは身近な職業なので、なりたいという生徒は多いといった印象です。この活動予定場所は、基本的には本人の希望の場所ということで調整していただいていると思うのですが、生徒数1人と記載のある場所は、お一人だけの希望だったのでしょうか。それとも受け入れの枠が1人だったのでしょうか。

(小島課長)

まず、受け入れ先の人数が決まります。それを割り振っていくのですが、学校内でも希望者が多くなったりすることがございますので、抽選をします。抽選をしまして、それぞれ割り振ります。

生徒たちには、自分が希望した事業所に行けることが一番良いのですが、そうでなくてもそこで何かを見つけてほしいといったことは伝えていきます。

(橋本委員)

あくまでも選択の一つとして希望を取っておりますが、希望が叶わなかったからといって教育にならないというものではないと最初の段階でしっかりと抑えておく必要があると思います。

あと、もう一つは、きちっとした数字の評価が必要だと思います。

具体的に項目別に整理して、ここで何パーセント出ておりましたが、どれぐらい協力しますという事業所がどれだけあって、どれだけの希望者がいて、どれぐらいの人がそこに行けたのかということもデータを取るということは、その段階での、その年齢とその時代における処遇に対する志向という意味合いでも評価できますし、それが必ずしも10年後、20年後に妥当かどうかもわからないということですので、それを時系列で取っていくと非常に興味深い、今後の教育を考えるうえで非常に生のデータとして重要になってくると思いますので、きちっとした数字を出していただきたいと思います。

(柏木委員)

希望通りにはいかないところの中で、そこで経験して得られるものももちろんあると思います。事業所確保が難しくなっているお話もあったのですが、今後、明石商業高校で福祉科を作っていくということを踏まえていくと、そういう福祉体験ができるような事業所の数を増やしていくといったところも必要かなと思っております。

先生は身近な職業だからなりたいという生徒が多いのですが、高齢者の方は身近ではなく、自分から希望することをしないとなかなか経験できないかなと思いますので、ぜひ、そういったところの確保を強化していくという視点も持っていただけるとよいと思いました。

あと、振り返りをされているというお話だったのですが、経験したことを学びに変えていくためには、事前に学ぶための土壌を作っていくということが大事になると思います。実際に「トライやる・ウィー

ク」を経験していく前段階として、学校側ではどのような準備や心構えを作っていくような授業をされているのでしょうか。

(桑原次長)

まず、一点目の福祉系の事業所についてですが、残念ながらコロナ禍で、2019年度は170名受け入れていたものが、今回100名しか受け入れがありません。これは、コロナ禍で受け入れが難しいという事業所が多かったためです。

コロナが収まりましたら、受け入れ事業所が増えるのではないかと期待しています。福祉体験についてより多くの生徒に経験していただきたいと思っております。

二点目の事前の準備や心構えについてですが、中学校では、「トライやる・ウィーク」はキャリア教育の一環ととらえておりますので、本番だけでなく、事前学習の段階から、保護者や地域の方に仕事のやりがい等を聞いたり、職場体験する事業所を事前に訪問して、活動に際して心がけてほしいことや仕事のやりがいなどをインタビューしたりする中で、職場体験活動への意識を高める取組をしております。

(柏木委員)

事業所側もどういうふうにもその時間を過ごしていただけたらいいかわからないままに受け入れている部分があると思いますので、よければどういった話をしてほしいというようなフォーマットであったり、どのポイントを伝えてほしいというような何かマニュアルではないですが、受け入れる際の手引きみたいなものを作っていただけると、受け入れ側としてもスムーズだったり受け入れやすくなるのではないかと感じます。

(桑原次長)

事前に教師が挨拶まわりを行うのですが、その際に、「こういうことを伝えてほしい」や、「こういったねらいで指導してほしい」ということを、しっかりと事業所に伝えるよう、学校に指導していきます。

(橋本委員)

3点あるのですが、まず終わってからの話ですが、アンケートを取ったりされると思います。もちろん提示された中から選んでいくわけですが、提示されていない中でもし何かこういった経験をしたいということがあれば教えてということも取ってもらって、とにかく間口を広げていくことが必要だと思います。今までの経験に基づく枠だけではなく、子ども達にどういったリクエストがあるのかということ进行调查する意味合いでも、意味があると思いますし、それを実際にできるかできないかは後で考えればよいことで、初期調査のアンケートとして子ども達がどういったことに関心があるかということも含めたアンケートを取っていただきたいと思います。

2点目としては、この教育委員会の話は、行政の中の一部の教育行政に関わっているところで、学校を支える組織としてどうかという学習機会だと思います。そういう意味でいくと、行政のいろいろな部署というのは、なかなか一般の人たち、特に市民にとってもそうですが、わかりづらく、1対1でしか評価しませんので、全体像をつかむことや生の声もわからないということもあると思います。そういう意味でいくと、教育委員会だけではなく、それぞれ協力しているような部署があれば、提供できるような仕組みを作ってもらいたいと思いますし、先ほどと関連しますが、子ども達に市役所ってどんなところだと思うか、市役所探検隊みたいなものをつくるとか、何か市役所に関心を持ってもらうということ、そういう意識を小さいうちから持ってもらうと、やはり市政とかに対しての思慮が出てくくると思います。

また、地域によっては、子ども達で子ども議会というようなものをつくっている地域もあつたりしますので、そういうことにも発展していき、市民のポテンシャルティが高くなることにも関わってまいりま

すので、そういった広い視野で、役所の提供を考えていただきたいと思います。

最後に、教育委員に質問するということが、逆に、事務局側から子ども達に聞きたいけれども聞けないことがあれば代わりに聞きますので、何かあれば教えてください。

(橋委員) いろいろ議論がありましたが、出た中身をおそらく冊子にしているのではないのでしょうか。それは計画から反省に至るまでになると思いますので、そういったものを見ると、議論に出た部分をもっとわかりやすかったのではないかと思います。

(北條教育長) それではこれより非公開審議となります。

報告事項3「令和4年度全国学力・学習状況調査分析資料」について」、説明をお願いします。

(小島課長) (説明)

(北條教育長) 何かご意見やご質問などはありますでしょうか。

(各委員) (質疑・意見交換)

(北條教育長) 以上で本日の議事は全て終了いたしました。

以上をもちまして、第20回定例会を終了いたします。

(14:25閉会)